

# 小田原市下水道管路包括的維持管理業務の導入効果について

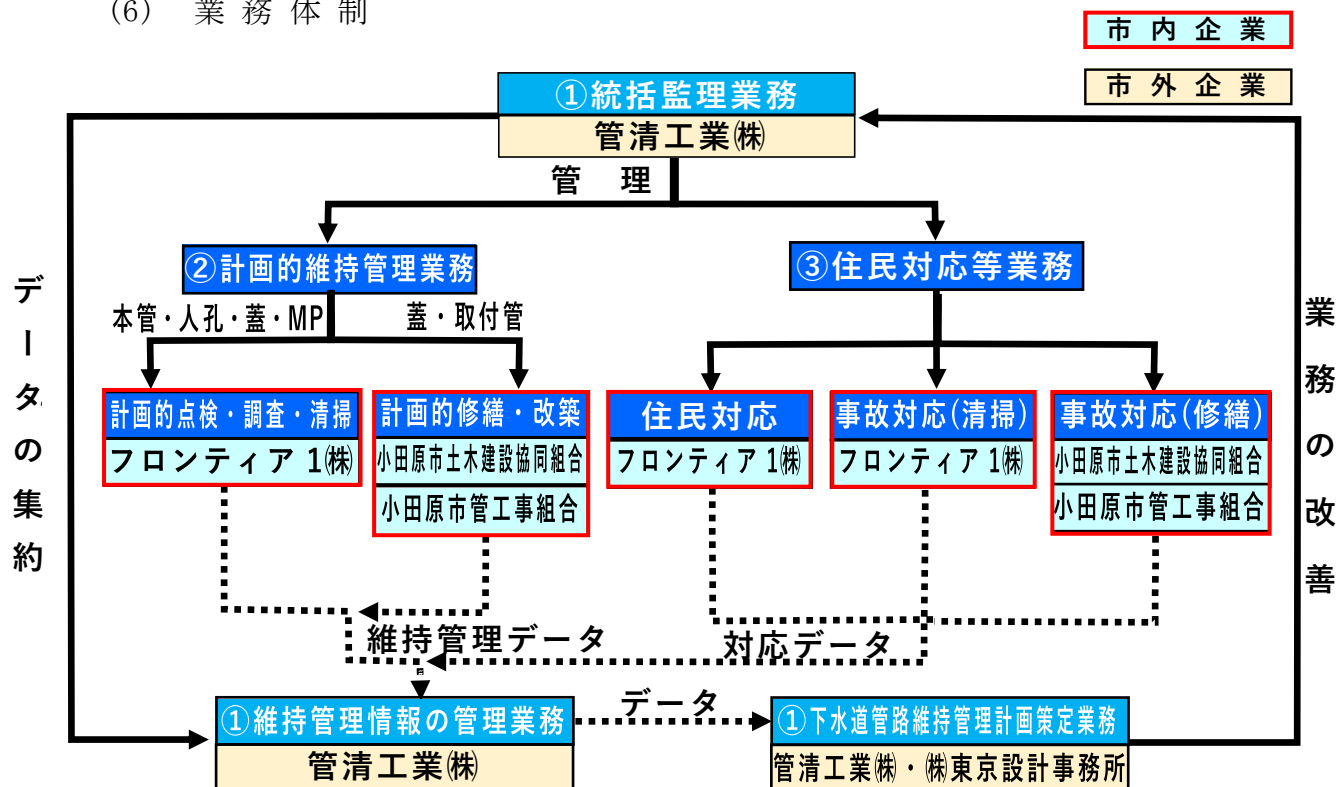
## 1 業務目的

本市では、下水道施設の老朽化や技術職員数の減少など、さまざまな課題に対応し、将来的にも安全・安心で持続可能な下水道事業の運営を継続するため、令和4年11月から下水道管路の包括的維持管理業務を開始している。

本業務は、民間事業者の体制やノウハウを活用するため、下水道管路の維持管理に関する各種業務を複数年かつ包括的に委託するものであり、市民等の通報受付から現場対応までをワンストップで行うなど、市民サービスの向上及び業務の効率化を図ることを目的としている。

## 2 契約状況

- (1) 受注者 管清工業・小田原市土木建設協同組合・小田原市管工事協同組合・フロンティア1・東京設計事務所共同企業体
- (2) 受注者名称 小田原下水道サービス
- (3) 契約締結日 令和4年9月27日
- (4) 契約金額 1,278,809,180円（税込）
- (5) 履行期間 令和4年11月1日～令和9年3月31日
- (6) 業務体制



### 3 業務内容及び数量

業務名		内訳	全体数量
① 統括監理業務		業務全般の統括監理業務	1 式
		維持管理情報の管理業務	
		下水道管路維持管理計画策定業務	
② 計画的維持管理業務	点検	人孔内目視点検（法定点検）	46 箇所
	調査	人孔内目視・TV カメラ調査	63,400m
	清掃	本管清掃	49,600m
		伏せ越し人孔清掃	1,236 箇所
		マンホールポンプ清掃	1,627 箇所
	修繕	人孔蓋取替	150 箇所
	改築	取付管の TV カメラ調査・更生工事	1,180 箇所
③ 住民対応等業務		通報受付・調査、本管詰まり処理や修繕工事等	470 件

※全体数量は、令和 4 年 11 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日までの履行期間

### 4 導入効果について

#### (1) 市民サービスの向上

受注者が市民等の通報受付から現場対応までをワンストップで迅速に行うことにより、業務完了までの時間が大幅に短縮され、市民サービスの向上につながっている。

通報受付から業務完了までの所要日数を導入前後で比較したところ、清掃業務は 1 件当たり 4 日、修繕業務は 1 件当たり 18 日短縮されている。

＜ワンストップによる清掃・修繕業務の短縮日数＞



#### (2) 業務の効率化

住民対応等業務においては、受注者が市民等から年間約 160 件の通報を迅速に対応していることにより、これまで職員が行っていた通報受付から現場調査、設計図書作成など、受注者決定までに費やす時間が大幅に削減され、職員の業務負担の軽減につながり、地震対策や長寿命化対

策などの政策的業務に注力できる体制が確保され、また、個別に契約を行う事務が必要なくなるなど、効率的な業務遂行が図られている。

なお、受注者においても複数年かつ包括的な契約により、年間を通じて業務計画の立案ができることから業務の効率化が図られている。

### (3) コストについて

下水道管路包括的維持管理業務における予算額は、従来方式による実績額（清掃・修繕業務等を合算した額）と比較して、約 1.1%（14,337 千円）の増額を見込んでいた。

業務開始以降においては、これまでの計画的維持管理等の業務実績を踏まえ、受注者との定期的なモニタリングを通じて、清掃箇所や清掃頻度の見直しを行ったことにより、効果的かつ適正な維持管理につながり、近年における人件費や資材費の高騰する中でもコスト縮減が図られている。

#### ＜包括導入時におけるコスト比較＞

従来方式 (実績額) 1,264,663 千円 (4 年 5 か月)	→ 約 1.1% 増 (14,337 千円)	下水道管路包括的維持管理 (予算額) 1,279,000 千円 (4 年 5 か月)
---	------------------------------	---

#### ＜各年度における契約額と決算額との比較＞

項 目	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
契約額 (A)	89,376 千円	281,285 千円	292,144 千円
決算額 (B)	89,252 千円	268,140 千円	284,000 千円
差額 (A-B)	124 千円	13,145 千円	8,144 千円
縮減率	0.1 %	4.7 %	2.8 %

### (4) 緊急時における体制の強化

受注者は、24 時間 365 日対応可能な体制を構築しており、令和 6 年の台風第 10 号（日降雨量 228 mm）における通報（37 件）をはじめ、突発的な事故等の緊急時に対して、迅速かつ適切な現場対応により、二次災害への防止につながっている。

(5) 地域社会への貢献

「クリーンさかわ」の地域清掃への参加をはじめ、「おだわら下水道桜まつり」では、水中ドローン操作体験のイベントブースを出展するなど、市民等への啓発活動を行うとともに、資機材等は優先的に市内企業から調達するなど、地域社会にも貢献している。

(6) 職員の技術力向上

受注者が開催する技術研修会（管更生設計時の留意点等）により習得した専門的知識が設計業務へ反映され、職員の技術力向上につながっている。

## 5 今後について

- (1) 受注者とのモニタリングなどを通じて、適宜、業務内容を見直すことにより、限られた財源の中で、効率的かつ効果的な維持管理につながっていることから、引き続き、適正な業務の履行に努める。
- (2) 令和7年度は、これまで本業務で実施した点検、調査等のデータ分析を行い、管路の老朽化対策をはじめ不明水対策も含めた維持管理計画を作成する。
- (3) 令和9年度以降（第2期）の包括的維持管理業務については、更なる市民サービスの向上及び業務の効率化を図るため、現状の下水道管路をはじめ、新たに下水道施設（下水道管理センター、早川・南町中継ポンプ場等）を加えた包括的な業務内容及び体制構築に向けて、検討していく。

### 【スケジュール】

令和7年9月22日	第1回事業者説明会（38企業・57名参加）
10月8日～30日	参加事業者との個別対話（12企業）
11月27日～28日	第2回事業者説明会
12月中旬頃	下水道施設包括的維持管理実施方針(案)作成
12月下旬頃	第2回上下水道事業運営審議会にて報告
令和8年2月頃	建設経済常任委員会にて報告